

総合的な学習の時間「身近な環境からよりよい世界へ 府中町キッズ環境プロジェクト」
～府中町がいつまでも住みよい町であるために～

本単元で育成する資質・能力

目標に向かう力、協働する力、情動を制御する力

- ◇ 日 時 令和4年10月19日(水) 5校時
◇ 学年・組 第4学年1組 39名
特別支援学級(自閉・情緒) 4年 3名

単元について

◇単元観

本単元は、総合的な学習の時間学習指導要領の第1の目標「探究的な見方、考え方を働かせ、横断的、総合的な学習を行うことを通してよりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す」を踏まえ、設定した。

本単元では、社会科「住みよいくらしをつくる」の単元での学習を基に、世界のごみ問題、日本のごみ問題、府中町のごみ問題と学習を広げたり深めたりすることができる。学習の過程で、SDGsの観点から外国との比較を通して、日本で当たり前のように維持されている生活環境が世界では維持されていないことに児童は気づき、課題意識をもつことができると考える。環境保全や環境衛生の向上のための様々な取組は、児童にとって身近な府中町でも行われている。そこで、環境課の方をゲストティーチャーとして招いて学習を進めることで、実際に自分が住む府中町の取組について学習するため、児童にとってより自分事として考えることができ、主体的に学習を進めていくことができる単元である。

単元に関わる本質的な問いを「2030年までにSDGsの目標を達成するには、どうすればよいのだろうか。」とし、単元を貫く問いを「府中町のごみ問題を解決するために、自分たちには何ができるのだろうか。」とした。これらの問いに対して、自分なりの答えを出すために、どんなことを学びたいかを話し合い課題設定をして、調べ学習やインタビュー活動等から考えを広めたり深めたりすることができる。そして、この問いに対しての解は一つではなく、また生涯において何度も問い直され、その答えを更新し続けながら、生きていくことができるその基盤となると考え、本単元を設定した。

◇児童観

本学級の児童は、第3学年の総合的な学習の時間「府中町のキラリ発見!!発信隊!!」において、町内の公共施設や自然環境、史跡等に関する情報を収集し、府中町の魅力について発見、発信する学習を行った。その中で、地域の方々の支えにより魅力ある町づくりが進められていることに気づき、多くの児童が、自分たちも町づくりに参画していきたいという意欲や、府中町への愛情をもつことができた。

4月からは、社会科「住みよいくらし」の学習を通して、ごみを処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効活用ができるように進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。一方、ごみ処理の課題については、日本のどの地域でも見られる普遍的なものであるとの理解に留まっている。

9月に行ったアンケート結果は、次のようだった。

項目	肯定的評価
①総合的な学習の時間の勉強は好きですか。	84.6%
②ペアトーク・グループトークを通して、自分の考えが広がったり深まったりしていますか。	69.2%
③伝える相手に伝えたいことが分かってもらえるように、表現方法や言葉を工夫していますか。	69.2%
④グループのメンバーと一緒に、あきらめないで主体的に学習を深めていますか。	89.7%

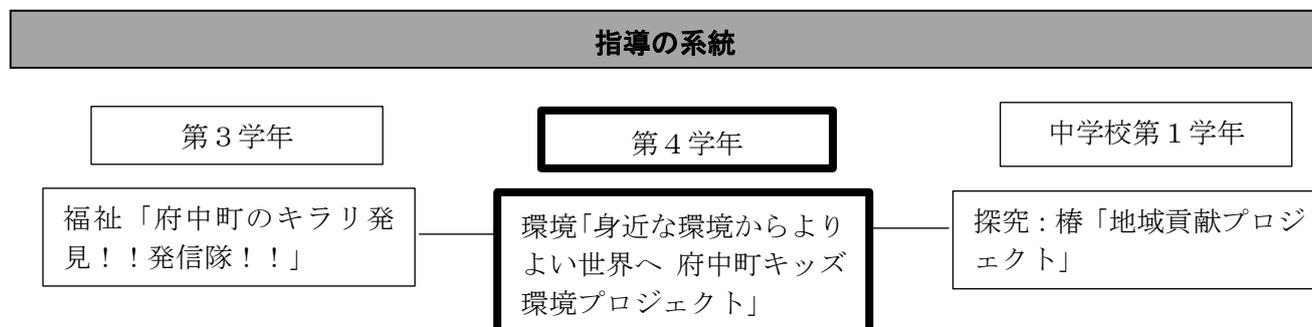
「①総合的な学習の時間の勉強が好き。」と回答したのは84.6%で、意欲的に学習を進めている児童が多いことが分かる。また、「④グループのメンバーと一緒に、あきらめないで主体的に学習を進めている。」と回答したのは89.7%であった。一方、「②ペアトーク・グループトークを通して、自分の考えが広がったり深まったりしている。」「③伝える相手に伝えたいことが分かってもらえるように、表現方法や言葉を工夫している。」と回答したのは、共に69.2%であった。グループで話し合ったり活動したりするのは好んですが、それによって自分の考えを見直して広げたり深めたりしたという実感をもてていないと言える。また、相手に応じて自分の表現方法や言葉を工夫しようという意識も、やや希薄であると思われる。

◇指導観

指導にあたっては、学習を進めながら折に触れて、単元に関わる本質的な問い「2030年までにSDGsの目標を達成するには、どうすればよいのだろうか。」や単元を貫く問い「府中町のごみ問題を解決するために、自分たちには何ができるのだろうか。」を確認し、意識させていきたい。また、ルーブリックを児童と一緒に作成することで、到達点を明確にし、児童一人ひとりが具体的な目標をもって意欲的に学習できるようにしていきたい。

学習の過程で、より良い解決策についてグループで一緒に考える学習に多く取り組ませることによって、自分の考えを広げたり深めたりさせたい。また、調べたことや考えたことを表現する場を何回か設け、それぞれ児童、保護者、地域の方に対して伝えさせる。このことを通して、表現方法や言葉を工夫して自分たちの思いを伝えていきたいという意欲を高めていきたい。

単元の終わりでは、ごみ問題の解決に向けて、児童一人ひとりが考えたことを実行させていきたい。ごみ問題をはじめとする環境問題は、児童が生涯をかけて関わっていく問題である。他地域の学校や自治体の取組も参考にさせ、児童一人ひとりが納得のいく解決策を見つけることができるよう、支援していきたい。



本時のルーブリック

協働する力	
S	・互いのよさを生かしながら話し合い、よりよい考えから最もよい考えを見つけようとしている。
A	・互いのよさを生かしながら話し合い、よりよい考えを見つけようとしている。
B	・互いのよさを生かしながら話し合い、意見をまとめようとしている。

板書計画

⑥府中町のごみ問題の解決策をより多くの人に知ってもらうための取組について友達と意見を交流し、よりよい方法を考えよう。

班	1	2	3	4
伝えたい内容	ごみの分別	雑紙や新聞紙のリサイクル	事業ごみの削減	生ごみの水切り
伝えたい相手	若い人	小中学生	ショッピングモールの店の人	町内の人
伝える方法	ちらしを配布する。	ビデオレターを送る。	リーフレットを持参する。	ポスターをごみステーションに貼る。
助言	・校区内のマンションだけでなく、町内全体に広げる。	・具体的な成果を示す。	・具体的なアイデアを提案する。	・環境課の人に相談する。

身近な環境からよりよい世界へ 府中町キッズ環境プロジェクト
～府中町がいつまでも住みよい町であるために～

単元の目標

府中町の環境について調べる体験活動を通して、環境保全に関する認識を深め、SDG sの視点から環境と自分の生活様式の在り方を考えるとともに、より良い暮らしにしていこうとする態度を育てる。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①ごみ問題をはじめとする環境問題は、自分たちの生活行動が繋がって起きていることを知るとともに、住んでいる国や地域によって、異なる問題が起こっていることを理解している。 ②インタビュー等による調査を、相手や場面に応じて適切に実施している。 ③環境問題に対する認識の高まりは、府中町のごみ問題を解決するために探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	①課題の解決に向けて、目的を意識し、見直しをもって計画を立てている。 ②インタビュー等で行う質問について、必要とする情報に応じて質問の内容や方法を決めている。 ③府中町のごみ問題の解決について発信する活動について、「実現可能か」「意味があるか」「有効か」等の視点から結び付けて、活動の根拠を見出している。 ④活動を通して気付いた自分の思い、自己の成長、学びによる自己の変容を生かして文章で表現している。	①府中町のごみ問題の解決に向けて自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを理解しようとしている。 ②府中町のごみ問題に関して、自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に取り組んでいる。 ③「府中町キッズ環境プロジェクト」を成功させるために、友達と役割を分担したり、自他の考えのよさを生かしたりしながら、問題の解決に向けて協力して取り組んでいる。

小単元のゴールに対するルーブリック

小単元のゴール		
「自分たちにできることを考えよう」 府中町のごみ問題を解決するために、自分たちに何が出来るだろうか。考えたことを学級で交流し、まとめよう。		
目標に向かう力	協働する力	情動を制御する力
S ・これまでに学習して得た知識どうしを関連付けて考え、的確な方法を複数見出している。	・互いのよさを生かしながら合意形成を図り、適正解から最適解を見つけようとしている。	・自他を尊重しながら感情や行動をコントロールし、学級で考えを出し合い、あきらめないで合意形成を図ろうとしている。
A ・これまでに学習して得た知識どうしを関連付けて考え、的確な方法を見出している。	・互いのよさを生かしながら合意形成を図り、適正解を見つけようとしている。	・自他を尊重しながら感情や行動をコントロールし、学級で考えを出し合い、対処しようとしている。
B ・これまでに学習して得た知識どうしを関連付けて考え、的確な方法を探している。	・互いのよさを生かしながら合意形成を図ろうとしている。	・自他を尊重しながら感情や行動をコントロールし、学級で考えを出そうとしている。

他教科及びSDG sとの関連

〈国語科〉「ランドセルは海をこえて」
〈社会科〉「住みよい暮らしをつくる」



2030年までにSDG sの目標を達成するには、どうすればよいのだろうか…。

府中町のごみ問題を解決するために、自分たちには何が出来るのだろうか。

4 考えたことを実行していこう

○わたしたちの生活を見直そう (新たな課題発見)
(個人) **主** 行動観察・ノート
・考えたことを実行していこう。
・他の地域では、どのような取組が行われているのかな。調べてみよう。

3 自分たちにできることを考え、伝えよう

○自分たちにできることを考えよう (整理分析) (本時3/4)
(グループ→全体) **思** 行動観察・ノート
・自分たちの考えた取組をより多くの人に伝えるには、どうしたらよいか。
・学校で、雑紙の回収・リサイクルに取り組もう。
・相手に応じた、効果的な方法を選んで伝えよう。

○「環境フェスタ」を開こう (表現)
(全体) **思** 行動観察・ノート
・楽しんでもらえて、実行してみようと思ってもらえるように、説明するぞ。
・突然の質問に答えるのは難しいな。わからないことはちゃんと調べて後で報告しなければ。

○役場の方から聞いたことを基に、考えを深めよう。(分析)
(個人→全体) **思** 行動観察・ノート
・府中町のリサイクル率は、他の市町に比べて低いね。どうにかしないとね。
・新聞紙や雑紙がリサイクルされずに、燃えるごみに多く捨てられているらしいよ。
・私たちの学校でも、雑紙が燃えるごみとして捨てられているね。何とかしたいな。

○日本のごみ問題について、友達と交流しよう
(表現・新たな課題発見)
(全体) **思** 行動観察・ワークシート
・マイクロプラスチックの問題には、日本も大きく関わっているんだね。
・他のグループの発表から、多くのことを学べたよ。
・府中町には、ごみに関する課題はあるのかな。



2 役場の環境課の方に質問しよう

○もっと調べてみたいことを考えよう。(情報収集)
(個人→グループ) **知** 行動観察・ノート
・府中町のごみ問題の情報は、なかなか集まらないや。
・役場の環境課の方にインタビューしてみよう。

1 日本のごみ問題について知ろう

○自分たちが社会科で学習したこととつながりのあるSDG sの現状について、くわしく見てみよう。(情報収集・分析)
(全体) **知** 行動観察・ノート
・水道水をそのまま飲める国は、世界で9か国しかないんだ。日本で当たり前のことが、世界では当たり前ではないんだね。
・世界には、ごみに関する問題がたくさんあるんだね。日本には、ごみに関する課題は本当はないのだろうか。

○日本のごみに関する課題を調べよう (課題設定)
(個人→グループ) **思** 行動観察・ノート
・日本にも、ごみに関する問題がたくさんあるね。
・日本のごみ問題について、もっと深く調べてみたい。
・ゴールは「具体的な日本のごみ問題についてまとめ、友達に伝える」にしよう。

